

News 21/07/02 乾電池だけで4日間連続詳細Web撮影・計測を確認
製品版は7月末完成予定

乾電池駆動で何処でも置いて詳細運用5日間と通常運用で年間動作の見通しを得ました。

計測・撮影・通信も必要なおきのみ電源を入れ後はスリープさせて消費電力を抑えます。

今回の10分間隔詳細運用動作で夜間LEDライトを点けた消費電力の運用でも4日間連続動作の実績を得ました。そしてこれから実際の運用時間の予想を行いました。

想定する実運用では通常、計測間隔は10分間隔のままに1日1回撮影し映像と計測データをまとめてサーバに送信しWeb更新します。これで毎日電池電圧を含め現地の状況がわかります。

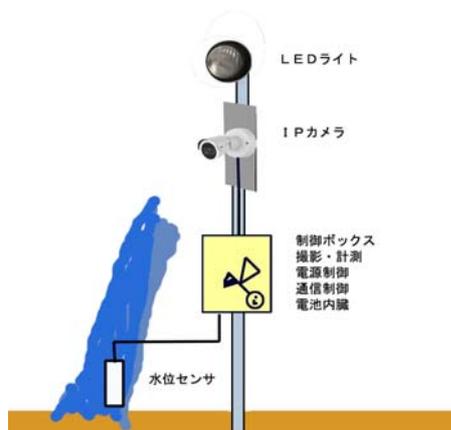
そして水位が警報レベルを検知すると10分間隔の詳細観測モードに移行します。この通常モードと詳細モードの運用なら1年通常運用モードで運用した後も単1×8本で1～2日間詳細モードで電池切れまでの運用ができます。単1×8本×2セットを内臓予定なので詳細モード運用可能期間は+4日の5～6日となります。

増水が1日で収まるとすると詳細モード5～6回で増水を乾電池だけでモニタできる試算となりました。

十分実運用が可能な見通しです。(運用時間が足らなければ乾電池の増設で対応可能です。)

この説明では水位センサを例に取りましたがFB-HORNETで使えるセンサなら歪や伸縮、土壌水分、接点など様々に組み合わせ、電池駆動で映像を加えた詳細観測が可能となります。

現在、評価版から製品版の開発を進めており7月末完成予定です。



溪流の増水位監視イメージ
(増水時10分毎撮影)



乾電池とIPカメラ
制御ボックス 25x35x20cm



クリアなIPカメラの
撮影映像